【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	長崎県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	美津島町立　雞知中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	２	０	６	１４
生徒数	８１	４６	６７	０	１９４	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

「未来を切り開く学力の向上をめざす」
～学びの機会や方法の研究を通して～

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・全学年・全教科
　主に，国語・英語・数学の３教科に重点を置く。理由は，国語は，読解力，英語は，言語能力，数学は，計算と筋道を立てた考え方など，全ての教科の基本となると考えるため。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　「未来を切り開く学力の向上をめざす」 ～学びの機会や方法の研究を通して～ ○　・「学びの機会」を充実させる方策として，効果的な選択教科の開設・実施や，朝自習・家庭学習の工夫をする。 ・方法の研究として，TT 指導・習熟度別指導など，個に応じたきめ細かな指導をする。 　以上のことに取り組めば，基礎・基本を定着させることができ，「わかる喜びが生まれ，学習意欲がでてきて，「確かな学力」の向上につながる。 ○（内容）（１）個に応じた指導のための指導方法・指導形態の工夫改善 （２）個に応じた指導のための教材・教具の研究 （３）評価と一体化した指導の研究 （４）選択教科の工夫 （方法）（１）について，①数学科における習熟度別授業 ②数学科と国語科における TT 授業 ③英語科における ALT との TT 授業 （２）について，①国語科と英語科における，文検・NIE・手づくり教材 ②数学科における百マス計算・パソコン・プロジェクターの利用 （３）について，①絶対評価に関する研修 ②講師招聘による評価基準や評価方法の工夫改善 （４）について，①選択教科の履修幅の拡大 ・選択Ⅰ・Ⅱの開設・実施 ・数学科における習熟度別コースの開設 ②学校選択（選択Ⅲ）の開設

平成16年度	○　「未来を切り開く学力の向上をめざす」 ～学びの機会や方法の研究を通して～ ○　・「学びの機会」を充実させる方策として，効果的な選択教科の開設・実施や，朝自習・家庭学習の定着と充実を図る。 ・方法の研究として，TT 指導・習熟度別指導や，発展的・補充的教材の開発に取り組む。 以上のことに取り組めば，基礎・基本を定着させることができるとともに，学ぶ習慣が身につき，学習意欲を高めることができる。 ○（内容）（１）個に応じた指導のための指導方法・指導形態の工夫改善 （２）個に応じた指導のための教材・教具の研究 （３）学力の評価を生かした指導，および，評価方法の工夫 （４）選択教科の工夫 （５）家庭学習の定着と充実 （方法）（１）について，①数学科における習熟度別授業 ②数学科と国語科における TT 授業 ③英語科における ALT との TT 授業 （２）について，①国語科と英語科における，文検・NIE・手づくり教具 ②数学科における百マス計算・パソコン・プロジェクターの利用 ③発展的・補充的教材の開発 （３）について，①評価規準・基準の見直し ②生徒の学力の実態調査 ③評価方法の工夫 （４）について，①選択教科の履修幅の拡大 ・選択Ⅰ・Ⅱの開設・実施 ・数学科における習熟度別コースの開設 ②学校選択（選択Ⅲ）の開設 （５）について，①宿題や課題の工夫 ②家庭との連携

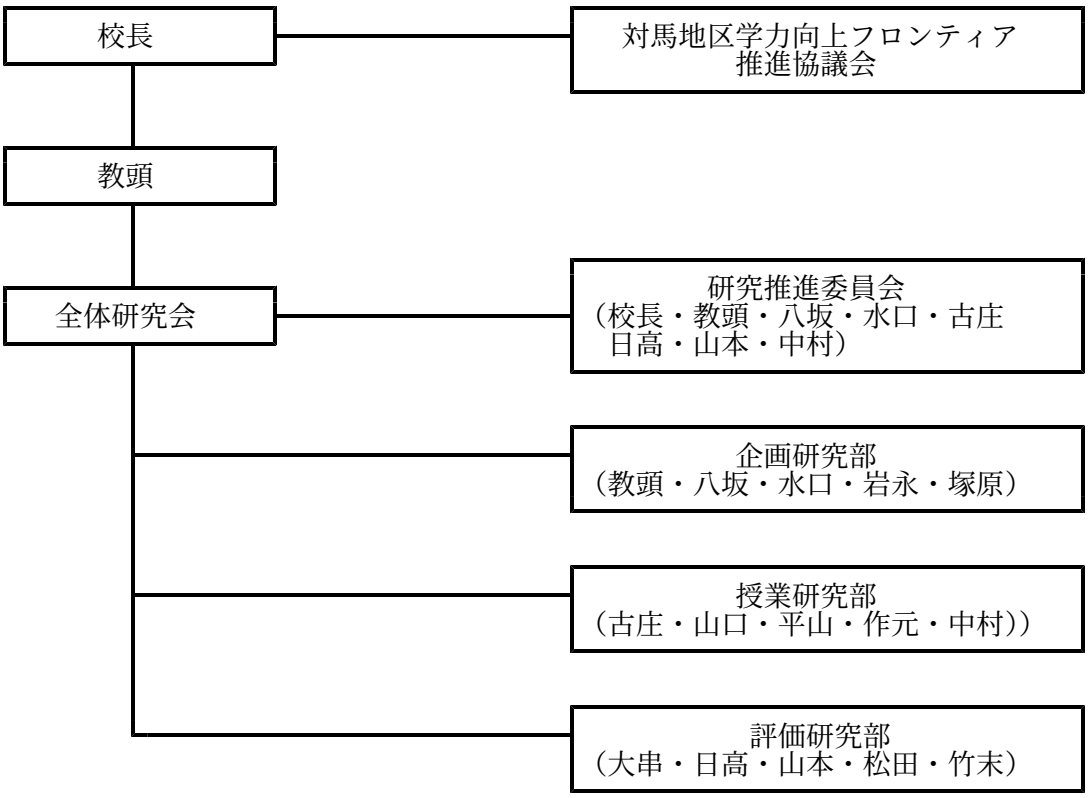
（３）　研究推進体制

○　毎週火曜日を「フロンティアの日」として，校内研修全体会や研究推進委員会を開き，推進委員会や各研究部からの報告やお願いを全職員に伝え，共通理解を図ったり，協議を行う。

○　各研究部の取り組み

研　究　推　進　委　員　会	授　業　研　究　部
・研究の全体計画，及びその推進	・基礎・基本の確実な定着 ・きめ細かなわかる授業の研究・実践 ・研究授業の計画・実施・考察 ・授業形態の研究 ・指導案の検討 ・教材，教具の工夫・研究
企　画　研　究　部	**評　価　研　究　部**
・弾力的な時間割編成の研究・運用 ・選択教科の工夫 ・先進校の資料等の収集 ・先進校視察の計画	・評価を生かした指導法の研究 ・学力診断テストの実施 ・絶対評価の実践的研究 ・本研究自体の評価 ・実態調査アンケートの作成・実施 ・基礎学力調査の検討と活用

○　研究組織図



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

◎　研究の成果と今後の課題

○　各教科の取り組み

（１）教科名　（国語）　観点・手だて

観点	話す・聞く能力を高めるために
手だて	○　討論ゲームについて，ディスカッションの形式をとり，時間を決て，発表し，討論し合う。 ○　聞き取りテストの実施 ○　小説の単元では，感想を発表することによって，相互の読みとりの違いや深さを知る。 ○　詩の授業の発展学習として，「詩のチャンピオン」に取り組む。 ＊　教科書以外の詩を紹介し，生徒に発表したい詩を選ばせ，チームを作り，効果的な表現方法を考えた発表をさせ，審査をする。 （その他）短学活での１分間スピーチによる「話す」練習
観点	書く能力を養うために
手だて	○　「日本語文章能力検定」に取り組み，週１～２時間の授業の中で，５０分のうち１５分を使って，プリントによる練習問題を解かせる。 ＊　「内容把握」，「文章把握」，「文章表現」，「文の組み立て」，「文の組み立て」，「手紙文を書く」，「短い意見文を書く」などの，各分野にわたって問題を準備。 ○　ＮＩＥ　（新聞利用学習）の取り組み ＊　・自分が興味，関心をもった記事に見出しをつける。 ・自分が興味，関心をもった記事に対するコメントを書く。（２００字程度） ・新聞記事を事実を述べた文，意見を述べた文，その他を述べ

	た文に分ける。 ○　「自分新聞をつくろう」や「体験文を書く」等の単元で，新聞を利用したり，推敲の仕方を指導。
観点	読む能力を高めるために
手だて	○　古典の音読と暗誦を繰り返すことで定着を図る。 ＊　「音読カード」の利用 ○　読書活動の日常化　（朝自習の時間を利用して） ○　選択Ⅲにおけるモーニング読書の実施 ○　音読（グループ読み，ペア読み）と音読テストの実施

観点	言語事項に関する知識を高めるために
手だて	○　漢字や語句，文法等の小テストの実施 ○　熟語を取り入れた書写の指導

（２）教科名　　（国語）　　形態・評価・成果と課題

形態	○　同教科 TT Ｔ１とＴ２は，領域による分担，指導と支援，評価の分担など，実態や学習内容に応じた工夫をしている。
評価	○　「学習訓練的な基礎・基本」（学習魂）の定着のために，毎時間の忘れもの，家庭学習，発表のチェックをし，記録する。それは，成績処理の際に参考にした。 ○　自己評価表を作成し，生徒の学習意欲の向上に生かした。
成果と課題	○　「日本語文章検定」は，読解力と表現力を養うことができた。 ○　Ｎ　Ｉ　Ｅの取り組みは，条件作文や小論文の向上につながった。 ○　同教科 TT による指導は，支援が必要な生徒へ細やかな指導ができ，また，生徒も質問しやすい。 ○　特に，短歌，俳句の創作や，作文指導において，少人数での指導ができる。 ○　「学習訓練的な基礎・基本」の定着を図ることができなかった。 ○　Ｔ１とＴ２の打ち合わせの時間がなかなかとれず，効果的な役割分担ができない。 ○　評価と一体化した指導については，これから研究しなければならない。

(1)　教科名　（　英語　）　　観点･手だて(実施状況)

観　点	興味関心を高めるために
手だて (実施状況)	・　　発表カードの作成(自主的な発表ができたらスタンプを押印する) ＊　自主的に挙手をし、発言した生徒に対し、自己申告の形式で各自に用意した 発表カードに押印した。　全学年共通のカードを使用した。
観　点	表現力(話す力、書く力)を養わせるために
手だて	・　　学期毎に ALT と1対1による面接テストの実施 ＊　　ALT と生徒の二人きりで面接を行った。質問は一人に対し5問(約3～5分)とした。3学年においては、5問目に生徒から ALT に自由に質問を

（実施状況）	させた。 質問は30問程度用意し、その中から選んで出題した。 ・　　単語バトルの実施 ＊　ゲームの中で単語力を競い合い、各力を養った。
観　点	技能（読む力、聞く力）を身につけさせるために
手だて （実施状況）	・　　教科書の読み取りの際に、導入としてリスニングクイズを用いる。 ＊　　本文の内容について授業の導入の際に TF クエスチョン（3～4問）を実施。 低学年は1学期中のみ、日本語による問題を用意した。2学期からは英語による問題に切り替え、ステップアップを図った。 ・　　マザーグースの読み聞かせ ＊　外国でよく知られているマザーグースより、厳選し、読み聞かせた。
観　点	知識・理解を身につけさせるために
手だて （実施状況）	・　　長期休業中における課題（冊子を作成する） ＊　　夏期休業中は20～30ページ、冬季休業中は10～15ページ程度の課題を 与えた。 ・　　英語資料集の活用 ＊資料集と教師の外国訪問の際の話を授業の中で導入し、異文化について理解 を深めさせた。

（2）　教科名（　英語　）　　形態・評価・成果と課題

形　態	・　一斉、グループ（2～7人） ＊　本文の導入において、やや難解な文章を学習させる際には、グループ、ペア、一斉の順序で形式をかえた。班で協力して文章を読みとることから、最終的には自力で与えられた文章の根拠となる文や答えを探し出せるようにした。
評　価	＜興味関心を高めるために＞ 月末にカードを回収し、記録をとった。学期毎にさらに集計し、成績処理の際に参考にした。 ＜表現力を養わせるために＞ 5問の質問は1つ2点（10点満点）とした。文章になっていないが、間違ってもいない答えに対しては、1点とした。合計点の上にさらに発音力1点を加え、合計11点満点 とした。 ＜技能を身につけさせるために＞ ノート点検を実施した。 ＜知識、理解を身につけさせるために＞ 実力テスト後にすぐに回収し、点検を行った。長期休業中の課題を確実に行わせるために、評価は重視した。
成果と課題	＜興味関心を高めるために＞ 挙手をして発言をする生徒がかなり増加したが、発表する生徒に偏りがみられる。 ＜表現力を養わせるために＞ 英語検定試験等において大きな効果があったと思われる。日常の学校生活の中でにおいても、積極的に ALT と会話をする場面がしばしば見受けられた。 しかし、全員の面接を行うのに2時間程度かかってしまう。今後さらに面接試験を増やしたいが、なかなか難しい。 ＜技能を身につけさせるために＞ 学期末毎の試験、英語検定等におけるリスニングの状況によると、かなり正答率がよい。1年間で確実にリスニング力がついているものと思われる。高

	校入試を意識し、英語を聞いて、自分の意見を英語で述べるような問題を今後毎回導入する予定である。 ＜知識、理解を身につけさせるために＞ 　　低学年においては夏期休業後の課題提出状況が例年よくなく、学期末の評価をみて反省しているようである。夏期休業中の課題の量の調整、精選が必要かと思われる。

（1）教科名　　（ 数学 ）　観点・手だて

観点	関心・意欲・態度
手だて	・百マス計算に取り組むことで，短時間で集中し，授業開始から数学に対する学ぶ意欲を高める。 ・１時間のなかで習熟度別学習に取り組み，理解の遅い生徒やつまずいている生徒にも対応することで，分かる喜びを体得し，数学に対しての意欲，関心を高める。 ○　静かな雰囲気で授業をスタートさせることができる。 ○　一斉指導だと質問や発表できない生徒も発言が多くなる。 ●　質問が多い生徒に指導が偏る。 ●　習熟度別に分かれるとき，基礎的な方へ偏る傾向が強い。
観点	数学的な見方・考え方
手だて	・考える場の設定。授業の中で考える場をできるだけ長く取り入れる。同教科Ｔ・Ｔを活用して，二人の教師が生徒一人一人に助言を与えながら机間指導を行い，数学的な見方や考え方を引き出す。３分の２以上が解決できたくらいに全体で解答を行う。 ○　一人一人援助することで，数学的な見方を拡げたり，考え方を深めたりすることができる。 ●　指導に時間がかかる。 ●　早く終わる生徒と時間がかかる生徒に開きができる。
観点	表現・処理
手だて	・百マス計算や基本的な計算問題をくり返し取り組むことで，速く正確に表現できるようにする。 ○　繰り返して取り組むことで，計算が速くなり，正解率も上がるので，力が付いてきたことが自分で分かる。 ●　ある程度できるようになると，慣れから飽きてくる生徒が出てくる。 ●　練習問題をたくさん用意しなければならず，準備に時間がかかる。
観点	知識・理解
手だて	・パソコン（パワーポイント）とプロジェクターを利用し，数学の基礎的な語句の定着を図る。 ・同教科Ｔ・Ｔや３人の教師によるＴ・Ｔを活用することで，Ｃの生徒への指導をより細かく行う。 ○　黒板を離れて，スクリーンを活用することで，目新しい気持ちになり印象深く，よく理解できた。 ○　Ｔ・Ｔにより，多くの生徒に対応することができる。 ●　機材の数が少ないため，常にパソコン等が教室に設置されておらず，授業前の準備に時間がかかる。 ●　質問しやすいが，逆に教師に頼りすぎる生徒もいる。

（2）教科名　　（ 数学 ）　形態・評価・成果と課題

形態	・同教科Ｔ・Ｔ 　　Ｔ１が授業を進行し，Ｔ２が机間指導，支援の必要な生徒への指導評価を行う形をとっている。どちらか一方の教師が主導権をにぎることで円滑に授業を進めている。 　　１時間内で習熟度別学習を取り入れる。導入過程を一斉指導したあと，基本的な問題を提示し，Ｔ１が応用コース，Ｔ２が基礎コースを指導。その後，まとめ段階を一斉指導にする形をとっている。

	○　支援が必要な生徒への対応に時間をかけることができる。 ○　質問しやすくなり，意欲的に授業に取り組む生徒が増える。 ●　学力が中程度の生徒が基礎コースを選ぶことが多く，基礎コース内でも時間に開きがでる。 ●　進度が気になり，Ｔ・Ｔでも十分な個別指導ができないことが多い。 ●　打ち合わせの時間の確保が難しい。
評価	・自己評価表を作成し，授業の最後に記入している。本時の反省と次時への意欲づけになり，復習の呼びかけに活用している。 ・Ｔ２が机間指導をしたり，習熟度別学習で基礎コースを指導しながら，主につまずきの多い生徒を評価している。また，授業態度や数学に対する意欲の評価もＴ２が記録している。 ○　自己評価表を記入することで，自分がつまずいた内容がどこであるのかがわかり，質問したり，復習に取り組むことができる。 ○　２人の評価を合わせることで，より多様に客観的に評価できる。 ●　自己評価は個人の基準に差がある。自己理解が十分でない。 ●　指導，支援に時間をとり，計画通り評価できない。
成果と課題	・常時，同教科Ｔ・Ｔや３人の教師によるＴ・Ｔ指導をしているので，支援が必要な生徒への対応が細かくでき，目が行き届く。しかし，打ち合わせの時間確保が難しく，十分にＴ・Ｔ指導の長所をいかしきれていない。 ・習熟度別学習に取り組むことで下位の生徒の発表が増え，意欲的になり，自信にもつながる。しかし，１時間内の習熟度別学習であり，１単元内での継続した習熟度別学習ではないので，次年度は内容や指導方法を工夫し，より充実した習熟度別学習になるよう検討が必要である。 ・指導案の内容や年間指導計画と評価計画，より細かい手だてなど，さらに深めることが課題である。

○　選択教科の取り組み

（１）　選択Ⅰ・Ⅱ

２・３年生を対象に，選択Ⅰは，国語・数学・英語の３コース，選択Ⅱは，音楽・美術・技術・家庭の４コースを設定する。ただし，３年生の数学コースは，「基礎コース」と「応用コース」の２コースに分ける。２年生の選択コースは，年間２５時間，３年生の選択コースは，年間６５時間を履習する。

（２）　選択Ⅲ

①　ねらい

「確かな学力」の向上のために，基礎・基本をおさえる必要がある。そのために，国語・英語・数学の３教科について，「読み・書き・計算」などを中心に行う。しかし，一番のねらいは，全校で学力向上に取り組むということである。

②　実施学年・教科

全学年（国語・英語・数学）

③　形態

体育館において，全校生徒一斉に行う。

④　時間

３０時間

⑤　方法

担当教師を，国語班（４人）・英語班（５人）・数学班（６人）の３つの班に分け，国語は毎週，英語と数学は，１週間おきに実施する。その方法として，国語班を２人ずづの２班に分けて，国英班（７人），国数班（８人）とし，それぞれのグループで，毎時間指導にあたる。

⑥　実施状況

○　国語　（モーニング読書）

教師の肉声によるストーリーテリング。全生徒にプリントを配布し，タイムリーな内容の本を選び，読み聞かせる。

○　英語

・単語練習（全学年共通問題）。小テストをし，答え合わせの後，全校生徒で発音練習をする。

・弁論発表（生徒による英語発表）

・英会話（「セサミストリート」）。ビデオ視聴の後，生徒同志，あるいは教師と英語で会話をする。

○　数学

・百マス計算と各学年別の演習問題。

⑦　成果と課題

＜成果＞

（国語）

・教師の肉声によるストーリーテリングは，従来の放送を通じての読み聞かせとくらべて，より臨場感があり，生徒の反応もよい。楽しみにしている生徒も多い。

（英語）

・生の英会話や発表を経験することは，感銘度が高かった。また，学年別に習熟度は異なるが，それぞれの立場で，自分なりの受け止め方をしていた。

（数学）

・全校生徒で一斉に行う百マス計算は，各学年の競争意識がでてきて，意欲があふれた雰囲気で取り組めた。各学年別にわかれて行う演習問題も問題が解けない生徒一人一人に，教師がアドバイスをしているので，良い問題解決学習になった。

＜課題＞

・体育館で行うので，机やイスがなく，姿勢が良くないという点を改善し　なければならない。

・冬期は，寒さ対策を考慮しなければならない。

○　教科外での取り組み

（１）　朝自習

①　実施状況

（１年）

・朝読書に取り組み，図書室から本を借りて，毎朝読む。

（２・３年）

・生徒自身の作成による問題を解く。

②　成果と課題

＜成果＞

・朝読書は，集中して静かに読んでいて，落ち着いた朝のスタートができる

・プリント学習も，授業で習った後の問題が中心なので，復習に役立っている。

＜課題＞

・朝読書とプリント学習を交互にしたりなど，いろいろな方法を考えていく必要がある。

（２）　家庭学習

①　実施状況

・家庭学習ノートを毎日点検しながら，意欲をもたせる。

・家庭課題プリントによって，毎時間の復習をさせる。

②　成果と課題

＜成果＞

・家庭学習ノートは，毎日，教師が見て，一言でも，励ましの言葉やアドバイスを書くので，生徒のやる気をおこさせ，継続した学習に役立っている

＜課題＞

・課題プリントは，継続して行うのは，困難な面がある。

・全員提出させる工夫を考えなくてはならない。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・TK 式学力テスト
（目的）生徒の学力の変容を把握し，今後の取り組みに生かすため。
（内容）国語・英語・数学の３教科
（時期）２月に行う予定

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・研究成果普及のための HP 作成し，CD を他校へ配布の予定。
・２年間の研究成果の発表会
・研究紀要，資料等の配布

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☆ １５年度からの新規校　□ １４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　☆ ４～６学級
□７～９学級　□１０～１２学級
□１３～１５学級　□１６学級以上

【指導体制】　☆ 少人数指導　☆ TT による指導
□ その他

【研究教科】　☆ 国語　☆ 社会　☆ 数学　☆ 理科
☆ 外国語　☆ 音楽　☆ 美術　☆ 技術・家庭
☆ 保健体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☆ 有　□ 無